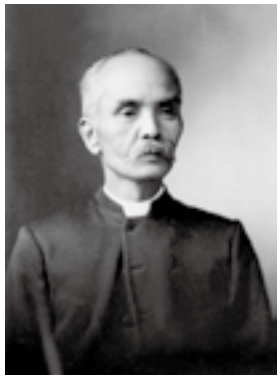
成田 ゆかりの人々

歴史と伝統文化のまち「成田」には、さまざまな分野で活躍した人や郷土の発展のために尽くした人がたくさんいます。先人たちの生き方からふるさと成田の歴史に触れ、未来へ大きく羽ばたく指標となれば幸いです。

第13回 飯田栄次郎（いいだえいじろう）



嘉永4年～大正13年（1851～1924）

江戸に生まれる。宣教師のウィリアム・B・ライト師から洗礼を受け、自宅に夜学塾を設けて漢文や歴史を教授するとともにキリスト教の伝道を行った。また、自宅を仮会堂にして、福田教会を発足させ、キリスト教伝道の中心的役割を果たした。

飯田栄次郎という人

飯田栄次郎は、嘉永4（1851）年9月13日、江戸に旧幕臣の山縣信続（やまがたのぶつぐ）の次男として生まれた。7歳の頃から漢字や剣術を修めるなど、向上心の高い少年であった。慶応3（1867）年、徳川幕府の陸軍生徒となり、廃藩まで藩兵訓練に当たった。明治5（1872）年には陸軍少尉となり、東京鎮台府の教官に任命されたが、軍内の薩摩勢力の気ままさに堪えかねて、翌年辞任してしまった。

明治6年、埴生郡松崎村（現在の松崎）に住む、山縣家と血縁関係にあった宮田七右衛門の紹介で、隣村の下福田村（現在の下福田）の飯田四郎兵衛家に婿入りし、農業に従事することになった。

キリスト教伝道者への道を歩みだす

明治10年、西南戦争が起こると、再び軍人になることを決意し上京。実家を訪れた時、すでにキリスト教の洗礼を受けていた実兄の山縣与根二（よねじ）から入信の勧めを受けたのがきっかけで、東京四谷の聖十字会堂に赴いた。そこで、宣教師のウィリアム・B・ライト師から聖書の教義を受け、軍人から一転キリスト教伝道者への道を歩みだした。それから6カ月間、ライト師の下で聖書を学び、その年の12月25日に洗礼を受け、翌年、神学校へ入学した。

左／大正時代の福田教会堂（『成田の歴史アルバム』より）
右／現在の福田聖公堂（場所：下福田）

明治13年、伝道師となった栄次郎は、中津村（現在の神奈川県愛甲郡愛川町）で伝道に着手し、同14年に帰省して下福田で伝道活動を開始した。自宅を利用して夜学校を開設し、漢文学・歴史・聖書の講義を行った。ところが村人からキリスト教への理解を得られず、反対する者が多くあり、同17年、下福田での伝道を一時断念し村を去った。

その後、下福田の青年達の間では、欧米思想に影響を受けキリスト教に対する関心が高まり、求道者の一団が形成されるなど、自主的に集会が開かれるようになった。その中には、後に衆議院議員となる大沢庄之助もおり、教会運営を担った。

明治20年、栄次郎は彼らの求めに応じて下福田に帰省し、自宅を仮会堂として日本聖公会福田教会を創立し、翌21年8月には福田教会堂を建設した。同25年3月に栄次郎が主任長老となって以降、福田教会は拡大の一途をたどった。信徒数は、同23年に60人、同25年には80人、同30年には113人と増加し、下福田にキリスト教が浸透し定着した。

栄次郎は、その後も県内各地に伝道を続け、大正13（1924）年6月3日、72歳で波乱に満ちた生涯を閉じた。現在の福田聖公堂は、昭和10年に移転したものである。

参考：『成田市史』近現代編、『成田市史』近代編史料集3、『成田市史研究』42号

編集後記

広報課に配属になって3カ月が過ぎました。先輩と一緒に、イベントや講座などの取材に足を運んでいます。取材後、記事を作ったり、フェイスブックに投稿したりする際に実感するのが表現の難しさ。どう表現すれば、分かりやすく興味を持ってもらえる文章になるのか勉強の日々です。これからも自分が見て聞いたことを正確に、そして魅力的に皆さんへ伝えていきたいと思います。

平成30年7月15日号　No.1367

成田市のホームページ
http://www.city.narita.chiba.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD（ユニバーサルデザイン）フォントを使用しています。

平成30年7月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課　〒286-8585 千葉県成田市花崎町760番地　電話0476-22-1111（大代表）